

# 「ゆーすぴあ “職” セミナー」

## ～人と出会い、自分に気づく旅～

### ★事業の概要★

#### 事業のねらい

- ① 社会生活に困難を有する青年の自立に向け、勤労体験・集団宿泊体験をとおして、生きる力を育む支援の機会とする。
- ② 交流の家がもつ地域の人的・環境的教育資源を活かし、自己有用感・社会性・集団意識の向上を目指す。

#### 期 日

平成23年 9月11日（日）～ 9月17日（土） [6泊7日]

#### 会 場

国立大雪青少年交流の家及び美瑛町内

#### 対 象 者

社会生活に困難を有する高校生以上の青年

#### 参加者数：参加募集人数

10名(参加者内訳：北海道5名、福島県3名、京都府1名、兵庫県1名)：12名

#### 日 程

	プログラム内容		
	午前	午後	夜
第1日目 9/11（日）		開会式、オリエンテーション、コミュニケーショントレーニングⅠ、先輩からの体験談	コミュニケーショントレーニングⅡ、ふりかえりⅠ
第2日目 9/12（月）	チャレンジワーク先訪問準備	チャレンジワーク先訪問 野外活動Ⅰ（アウトドアクッキングⅠ）	野外活動Ⅱ（アウトドアクッキングⅡ、火おこし） ふりかえりⅡ
第3日目 9/13（火）	チャレンジワークⅠ		メンテナンスタイム（自己判断、自己決定） ふりかえりⅢ
第4日目 9/14（水）	チャレンジワークⅡ		文化活動（想いをかたちにⅠ） ふりかえりⅣ
第5日目 9/15（木）	チャレンジワークⅢ		ホワイトタイム（自己判断、自己決定、自己責任） ふりかえりⅤ
第6日目 9/16（金）	チャレンジワークⅣ		表現活動（想いをかたちにⅡ） ふりかえりⅥ
第7日目 9/17（土）	明日への誓い 閉会式		

# ★プログラム紹介★

※写真は前頁、日程内の番号の事業風景である。



## コミュニケーショントレーニングⅠ、Ⅱ

様々なアクティビティを通して、人と関わることのすばらしさやコミュニケーションの大切さを体験から学んだ。



## 野外活動（アウトドアクッキングⅠ、Ⅱ、火おこし）

グループで話し合い、協力して調理することで、人間関係を築いていくための大切な要素を学ぶことができた。



## チャレンジワーク（写真：佐藤農場）

大自然のなかでの農作業を通して、人のために役に立つことの喜びなど、勤労の意義について考えた。



## チャレンジワーク（写真：大創ホーム）

建築現場において、作業をやり遂げていく職人の姿から、生きる意味について深く考えた。



## 文化活動

チャレンジワークでお世話になった方々に、感謝の気持ちをこめて贈るストラップを制作した。



## ふりかえり

事業中の生活習慣やチャレンジワークでの気づきと学びをふりかえり、自らの成長を確認できた。

## 運営のポイント

- ① 参加者が所属する自立支援施設の職員を対象に、事業運営についての説明会を事前に関することで、事業の概要について共通理解し、それぞれの役割を明確にした。
- ② 自己判断、自己決定、自己責任のもと、参加者が主体的に判断して活動する時間（メンテナンスタイム、ホワイトタイム）を設定した。
- ③ 先輩からの体験談では、講話者の年齢が参加者と近いことから、親近感をもちながら話を聞くことができた。また、人間関係の大切さや失敗を恐れないことなど自立の意義について深く学ぶことができた。

## 事業を終えて（成果と課題）

- ① 参加者は、チャレンジワークによる職業人とのふれあいによって、自分自身を冷静に見つめ直し、具体的な夢や目標をもつことができた。
- ② アンケートから、規則正しい生活習慣を身につけることが、意欲をもって生活することや自立のきっかけとなることを見出せた。
- ③ 参加者の自立へ向けて、支援や対応面での指導力向上を目指して、自立支援施設職員とより強い連携をとることが重要である。

## 今後の方向性

- ① 報告書をとおして、これまでの事業成果や事業運営のノウハウについて、関係団体や関係機関に発信し、普及していく。
- ② 新たな連携のスタイルを確立し、プログラム開発等を行い、より広い普及をめざす。